

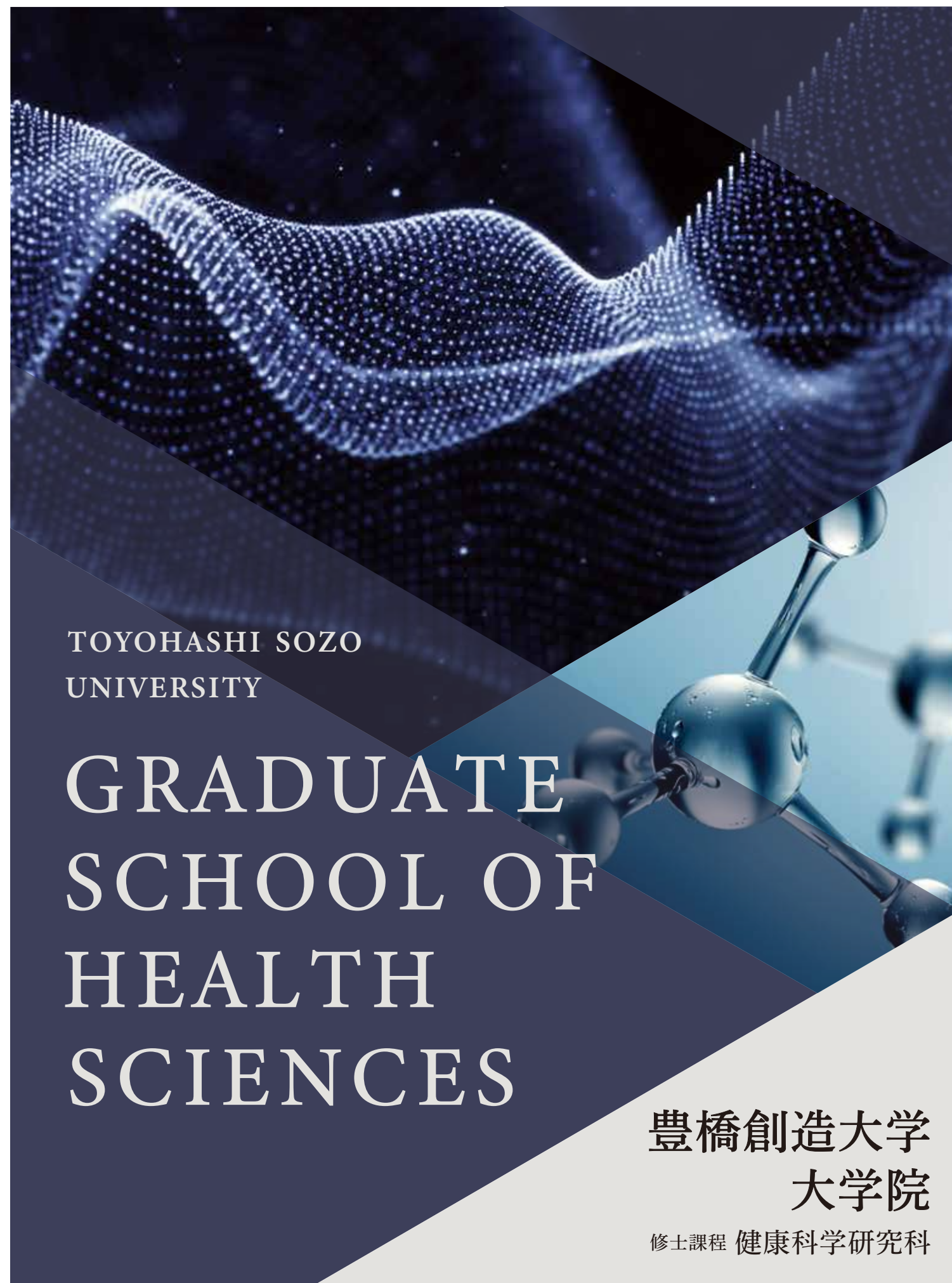


豊橋創造大学大学院
健康科学研究科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1
TEL:0532-54-9725 入試センター直通
Mail:nyushi@sozo.ac.jp

<https://www.sozo.ac.jp/>

※2026年4月1日時点の情報です。内容が変更になる場合がございます。



TOYOHASHI SOZO
UNIVERSITY

GRADUATE
SCHOOL OF
HEALTH
SCIENCES

豊橋創造大学
大学院

修士課程 健康科学研究科

 豊橋創造大学

すべての人々の健康長寿をめざして

人々の健康的な暮らしをサポートできる、
「健康科学」の指導的立場で活躍できる人材を育成。

少子高齢化社会の本格的な到来、健康ニーズの高まり、さらには東三河エリアの医療環境のさらなる充実を望む声に込えられるよう、豊橋創造大学保健医療学部(理学療法学科・看護学科)を礎に、さらに専門的な教育・研究を推進する修士課程を設置します。

わが国における健康づくり運動の骨子となる「健康日本21」の理念に基づき、疾病の予防、回復ならびに健康支援に重点を置いた教育を実施。「リハビリテーション学」と「看護学」およびそれらが関連する共通領域を総合的に学び、幅広い視点から人々の健康的な生活を支援できる専門的な知識・技術の修得をめざします。

アドミッションポリシー

1. 理念・目的等	本研究科では、人々の健康生活を支援し、健康寿命の延伸に貢献できる指導的人材を養成することを目的とした研究科である。
2. 選抜者基本方針	健康科学研究科の研究領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意思を持つ入学者の選抜を行うことを基本方針とする。
3. 求める学生像	<ul style="list-style-type: none"> ・保健医療などの臨床・実践の場において健康寿命延伸を目指す人 ・基礎研究の視点から健康科学領域における問題解決を目指す人 ・健康科学領域において指導的な役割を担おうとする人 ・社会人として活躍しながら研究を志す人
4. 入学者選抜方針	<p>(1) 内部推薦入試(一期、二期、三期、四期) 本学在学中の成績が優秀で、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。</p> <p>(2) 一般入試(一期、二期、三期、四期) 健康科学ならびに関連する領域についての知識とそれに対する意見を持つ者。さらに、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。</p> <p>(3) 社会人選抜入試(一期、二期、三期、四期) 大学学部卒業相当あるいは本研究科が定める職歴・研究歴を有し、健康科学ならびに関連する領域についての知識とそれに対する意見を持つ者。さらに、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。</p>

主な教育対象者

- リハビリテーション分野の国家資格を取得した人
- 看護分野の国家資格を取得した人
- 「健康科学」の専門的知識と研究マインドをもつ人

健康科学分野における指導的人材の育成と先端研究の展開

豊橋創造大学では、人の健康を害する障害と生体機能の回復・増進の支援についての知識・技術を集積するリハビリテーション学領域と、人の生涯にわたっての健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての知識・技術を集積する看護学領域の2つの領域と共に両領域に共通する福祉・医学等の共通領域から構成される「健康科学」を研究・教育する大学院修士課程を平成22年4月に開設しました。

本研究科の名称である「健康科学」は、従来の障害回復や介護等医療支援の域を越えた、幅広い健康生活支援のための研究を包括した学術領域を表しています。

この「健康科学」の分野では、指導的人材の育成が必要とされています。

そこで本研究科では、リハビリテーション学や看護学とそれらに関連する多彩な領域において優れた研究業績を有する教授陣と教育研究設備を擁し、これからの「健康科学」分野における指導的人材育成を行います。もちろん、国際的な研究の展開が可能な研究環境も整備されています。

保健医療に関連する専門資格を有する方はもちろん、健康科学分野の専門的知識の修得や研究開発を志す方にも広く門戸を開放しています。

これからの日本、いや世界の人々の健康を支えていくという高い志を持っている方の入学を期待しています。



研究科長
後藤 勝正

学修領域

リハビリテーション学領域

健康長寿社会に向けて運動や行動など身体活動を中心としたリハビリテーションの基盤となる知識や技術について修得します。さらに研究領域に関係する分野の最先端知識と研究手法を獲得し、新たな研究課題を探索するため特論科目を配置しています。

専門基礎領域

リハビリテーション学領域と看護学領域の両領域に共通し、本研究科の特色である多角的な視点から学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援する科目を配置しています。

看護学領域

看護の本質を探究し、看護実践への科学的なアプローチの探究や高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上にむけた特論科目を配置しています。

健康科学研究科
社会のニーズの本質を感じ取り
解決策を創造する
 教育・研究のフィードバック／人材の育成







地域社会のニーズ

- 1.さまざまな健康レベル、あらゆる年代の人々に対応した効率的なリハビリテーション、看護に関する専門知識を持った人材の育成
 - 2.健康長寿を保障する生活支援や支援システムの構築など、専門的な知識や技術を活かした新技術やサービスの開発、普及
 - 3.リハビリテーション、看護、健康生活支援分野における指導的人材の育成
 - 4.保健、医療、看護、介護、福祉従事者の再教育やキャリアアップ
- 豊橋創造大学保健医療学部を基礎に、リハビリテーション学と看護学を複合的に学修。
 - 障害や身体機能の回復、健康的な生活、スポーツ支援など、広範囲にわたる健康科学の専門知識や技術の修得をめざします。

養成する人物像 保健・医療・介護・福祉・スポーツ

リハビリテーション学領域で 問題解決能力を発揮できる人材の育成	病院など医療現場や福祉施設など、リハビリテーションの現場のさまざまなニーズに対応できる先端の知識・技術を持ち、指導的役割を果たせる人材を育成します。
多角的視点から看護を实践、 指導できる人材の育成	看護職に求められる総合的で多角的な視点と、質の高い専門知識や実践的技術を兼ね備え、さらに看護現場や保健行政において指導者となれる人材を育成します。
地域住民の抱える課題を 解決できる人材の育成	健康づくりに対して科学的な根拠に基づいた解決策を見いだせ、地域社会の健康づくりの中心として活躍できる能力と人間性を備えた人材を育成します。
「健康科学分野」の現代的課題に 取り組む教育研究者の育成	急速な高齢化の進行や障害の多様化など、現代的な課題に対して学術的な知識・技術を備えるとともに、教育研究機関や企業、行政で活躍できる人材を育成します。

卒業後の進路

 大学院博士課程への進学	 教育・研究機関
 健康関連企業	 保健福祉施設
 病院・診療所	 一般企業

修了要件

次の要件を満たしているときは、修了を認めることとする。

①学生は2年以上在学すること。 ②履修要件に定める授業科目を履修30単位以上を修得し、論文審査に合格すること。

基礎科目	4単位必修 「健康科学特論I」2単位必修／「健康科学特論II」2単位必修
専門科目	14単位以上 所属領域の特論科目 4単位必修／専門基礎領域およびその他の科目10単位以上
課題研究科目	12単位必修 「健康科学特別研究I」2単位必修／「健康科学特別研究II」4単位必修／「健康科学特別研究III」6単位必修

ただし、履修単位の上限は40単位とする。

③研究指導員の指導を受けたうえで、当該領域の目的に応じ、修士論文を提出し、修士論文審査および最終試験に合格すること。

授業科目

2026年度以降入学生用 教育課程表(授業科目開講一覧表)

※開講時期は、変更となる場合があるので、毎年シラバス等で確認すること。

科目区分	基礎科目	専門科目															課題研究											
		リハビリテーション学領域					専門基礎領域					看護学領域																
科目名	健康科学特論I	健康科学特論II	障害回復支援理学療法論	病態運動学論	運動機能解析学特論	生体機能学特論	生体構造学特論	身体運動制御学特論	内科系理学療法学特論	適応生理学論	医療統計論	生体構造論	研究論	対人コミュニケーション論	コンサルテーション論	身体運動解析論	ストレスマネジメント論	地域健康支援論	高齢者看護学特論	在宅・家族看護学特論	実践看護技術学特論	慢性看護学特論	母性看護・助産学特論	小児看護学特論	健康科学特別研究I	健康科学特別研究II	健康科学特別研究III	
単位数	2	2	2	2	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2	4	6	
必修	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
選択			●	●																								
自由																												
1年	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
2年		●	●																								●	
開講時期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋

豊橋技術科学大学大学院・放送大学大学院との単位互換制度について

本大学院では学術的及び教育・研究の充実をはかることを目的とし、大学院単位互換制度を設けています。教育研究上の必要に応じて協定締結校である豊橋技術科学大学大学院ならびに放送大学大学院で開講されている授業科目の一部を履修することができます。この制度に基づいて履修した授業科目の単位は、6単位を超えない範囲で修了要件に必要な単位として算入されます(「豊橋創造大学大学院単位認定に関する規定」参照)。本大学院とは異なる分野の科目を履修することができるので、履修を希望する学生は指導教員と相談のうえ、所定の期日までに手続きをしてください。

学納金

	入学手続き時	1年次入学後	2年次(年額)
入学金	250,000円*	—	—
授業料	360,000円	360,000円	720,000円
教育充実費	60,000円	60,000円	120,000円
実験実習費	—	60,000円	60,000円
合計	670,000円	480,000円	900,000円

*本学卒業生は入学金が免除となります。

修学支援制度


本研究科では学生の利便性にあわせ、下記の修学支援制度を設けています

昼夜開講制	研究奨励制度	遠隔授業の導入	PC貸与制度	長期履修生制度
職業を有する学生に配慮した時間割を作成しています。夜間(18時10分～21時20分)と集中講義に開講される授業科目のみの履修でも標準年限(2年)内で修了に必要な単位を修得することが可能です。	研究成果を在学中に学術集会(学会)などで発表する際に、参加登録費および旅費を補助する制度です。	インターネットを利用したテレビ会議システムを活用し、遠隔地からでも授業に参加できます。自宅や職場にしながら、本学で実施されている授業に参加し、講義室内行われている授業とのやり取りが可能です。	修士論文執筆をはじめデータ収集やその解析にはPCは欠かせません。そこで希望者には、ノートPCを修学期間貸与する制度があります。	職業を有する等の事情により標準年限(2年)で修了することが困難な場合、一定の期間(最長4年)にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することが可能な制度です。
		※開講される授業の中には遠隔では受講できない授業が含まれています。		※長期履修生制度を利用する場合は教育訓練給付を受けることはできません。

BACK UP 環境

職業実践力育成プログラム (BP)

豊橋創造大学大学院健康科学研究科の正規課程は、文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP: Brush up Program for professional)」に認定された教育プログラムです。



「職業実践力育成プログラム(BP)」とは

大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するものです。

養成する人材像

保健
医療
介護
福祉
スポーツ

リハビリテーション学領域で問題解決能力を発揮できる人材の育成
病院など医療現場や福祉施設など、リハビリテーションの現場のさまざまなニーズに対応できる先端の知識・技術を持ち、指導的役割を果たせる人材を育成します。

地域住民の抱える課題を解決できる人材の育成
健康づくりに対して科学的な根拠に基づいた解決策を見いだせ、地域社会の健康づくりの中心として活躍できる能力と人間性を備えた人材を育成します。

看護学領域における多角的視点を有する指導的人材の育成
看護職に求められる総合的で多角的な視点と、質の高い専門知識や実践的技術を兼ね備え、さらに看護現場や保健行政において指導者となる人材を育成します。

「健康科学分野」の現代的課題に取り組む教育研究者の育成
急速な高齢化の進行や障害の多様化など、現代的な課題に対して学術的な知識・技術を備えるとともに、教育研究機関や企業、行政で活躍できる人材を育成します。

対象となる方

理学療法士、看護師、保健師、作業療法士等の医療福祉領域、社会福祉領域、人間工学や建築、リハビリテーション工学等の工学領域、臨床心理学などの心理学領域、社会教育等々の教育学領域、体育スポーツ等の健康領域、健康支援施設経営等の経営学領域の仕事に従事している方

入学後修了までのスケジュール表

	入学前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ● 入学時オリエンテーション ● 履修指導 ● 研究指導教員決定 	健康科学特論I						健康科学特論II					
		関連領域の科目						関連領域の科目					
		専攻する領域の特論						専攻する領域の特論					
		研究テーマの決定へ向けた取組						研究テーマの決定へ向けた取組					
入学前指導	研究へ向けての基礎知識の取得												
	研究へ向けての専門知識の修得ならびに専門領域の先端知識の探求												
	研究計画の立案												
									修士論文研究 計画発表①※ (11月初旬)			修士論文研究 計画発表②※ (2月初旬)	倫理審査
							健康科学特別研究						

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2年次	関連領域の科目						健康科学特別研究(修士論文に向けた研究の実施と論文作成)						
	研究着手												
	修士論文完成へ向けての専門知識修得						修士論文完成へ向けての専門知識修得						
	研究指導・修士論文作成の指導												
										修士論文提出 (1月中旬)	修士論文審査 (2月中)	修士論文発表会 (3月)	修士(健康科学)修得

▬ 授業科目の履修
▬ 研究指導教員による履修指導ならびに修士論文(研究)の指導
 外周が点線で表示された矢印は、必要に応じた履修や指導を示す
 ※「修士論文研究計画発表会」は2回予定されているが、いずれかでの発表が必要

入学前年度
 ● 研究計画書に関する相談
 ● 入学者選抜試験・入学者決定

在学生・修了生の声

在学生

長谷川 稚奈
 2025年4月入学
 岐阜医療科学大学卒(臨床検査技師)



昔から医療系の仕事に就きたいと思っており、高校の先生から「医師より臨床検査技師の方が向いている」と勧められたことを機に臨床検査技師を目指せる大学へ。大学3年時の研究で筋肉のエコー測定などを行った際、筋肉に起きるわずかな変化について「なぜこうなるのだろう」と考察する時間が興味深く、卒業研究も経てさらなる探究心が湧き上がり、大学院進学を決めました。豊橋創造大学大学院はまさに私の希望にぴったりで、充実した研究環境や指導体制など自分を取り組みたい筋肉研究に適した環境があることが決め手でした。先日は、アメリカで行われた宇宙重力医学の学会で筋肉研究についての発表も経験。英語はあまり得意ではありませんでしたが、週に一度英会話に取り組み、原稿を何度も読み込んで準備万端に。当日は現地の方から積極的な質問を受けるなど日本とは異なる議論を体感し、自分の研究を「伝える力」や世界に「発信する視点」の大切さを実感しました。これら大学院での経験は、自分の可能性を大きく広げてくれています。今後はまず臨床現場で実績を積み、それを生かして教育にも携わりたいです。ゆくゆくは後輩や学生を支えられる立場になるのが夢です。皆さんも大学院に少しでも興味があるなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。その挑戦が、新しい可能性につながるはずですよ。

在学生

高橋 実菜
 2025年4月入学
 豊橋創造大学卒(看護師)



高校を卒業して豊橋創造大学看護学科で学び、医療センターに就職。外科病棟から循環器を含む病棟へと経験を重ねました。救急外来も兼任しながら9年ほど臨床に携わった中で、後輩や学生指導の難しさと面白さを感じたこと、そして基礎から学び直したいという気持ちで大学院進学を決意。入学が決まったタイミングで妊娠したため、出産を経て、子育てしながら大学院に通っています。大学院では看護の知識の深掘りはもちろん、経歴も年齢も違う同級生から受ける刺激が大きく、物事の捉え方が広がりました。研究でも、より多角的に考える力を養っていると感じます。現在、質的研究の手法を用いて「軽症患者が救急車を呼ぶ理由」を研究中です。救急外来勤務時、軽症でも救急車を要請される場面が多々あり、これを単に「呼びすぎ」と捉えるのではなく、どんな背景や不安があるかを明らかにすることが必要だと感じました。それによって必要な情報提供や相談窓口の整備などの支援につながりますし、救急車の適正利用が進めば、重症患者さんに迅速に対応できる体制が整うと思います。30代での大学院進学には不安もあり、仕事を離れる決断も容易ではありませんでしたが、踏み出して本当によかったです。もし年齢や環境で迷っている方がいれば、「やってみよう」という気持ちを第一にしてほしいです。

修了生

東京町社会福祉協議会勤務
 保健師 **山本 三樹雄**



人口2800人弱、高齢化率50%を超える山間部の町、東京町の社会福祉協議会で保健師をしています。小さな職場ですが、さまざまな機関と協力しながら、地域の医療・福祉・暮らしを支える体制を目指しています。高齢者への家庭訪問や、介護・生活に関する相談業務が主な仕事です。ほかには、地域住民とのワークショップ、介護予防教室などを行っています。これまで取り組んできた保健師活動を振り返り、言語化したいという思いから大学院進学を決めました。大学院での研究を通して、看護師、理学療法士、養護教諭など異なった職種や立場の方たちの視点や考え方に触れたことによる知見の広がりが、看護は多くの研究の上に成り立っていることを再認識することで表面的なことや経験則で仕事をしていたことへの反省など、現場に還元できる貴重な学びが得られたと感じています。仕事や家庭の事情などで、迷っている方も多いと思いますが、時間がたつほど進学が現実的ではなく、遠のいてしまうような気がしません。私は進学してよかったと思っています。やりたいと思っている今、ぜひ一歩を踏み出してみてください。

修了生

豊橋創造大学勤務
 理学療法士 **後藤 亜由美**



大学の臨床実習の際に、患者さんの治療に対する科学的根拠をうまく提示できなかったことがきっかけで、大学院進学を考えました。当時は臨床現場で働く理学療法士が研究に携わっていることは今ほど多くはなく、指導教員に相談したところ「あなたが理学療法の研究分野を牽引する人材とならない」との言葉をもらい、進学を決意しました。骨格筋に関する最新の知見を多くの国際誌に掲載しており世界レベルの研究ができること、研究機材が充実していること、この先生の下で学びたいと思える指導教員がいたことが、豊橋創造大学大学院を選んだ決め手になりました。現在は助教として、理学療法基礎実習、生理学実習などを指導しながら、骨格筋の可塑性や代謝、骨格筋-脂肪細胞の組織間ネットワークについて研究しています。また、高齢者を対象とした運動介入の効果についての検討や予防リハビリテーションにも従事しています。社会は急速に超高齢社会を迎えており、健康に対して科学的根拠に基づいた解決策を見出し指導できる人材が求められています。豊橋創造大学大学院には多様なカリキュラムがあり、健康科学の専門家として活躍できるような教育が豊富にあります。ぜひ、最先端の健康科学に対する知識・技術を持ち、将来的に健康科学を牽引する指導者として新しい一歩を踏み出してみませんか。

修了生アンケート

満足度の高い学びを実践しています

Q | 本研究科に入ってどう思いましたか。もっとも当てはまると思われる項目を1つ選択してください。

良かった **87%**

悪かった **0%**
 いずれでもない **13%**

※卒業生アンケートより抜粋。2012年度卒業生～直近の2023年度(2024年3月卒)卒業生までを集計

教員紹介 豊富な経験と高い専門性を有する教員陣

後藤 勝正

GOTO Katsumasa

副学長・研究科長

【担当科目】

健康科学特論I、障害回復支援理学療法論、生体機能学特論、適応生理学論、研究論、健康科学特別研究I～III

【研究領域】

骨格筋可塑性制御(筋肥大ならびに筋萎縮予防)、骨格筋生理学、サルコペニア・ロコモティブシンドローム、運動生理学、宇宙医学

金井 章

KANAI Akira

教授

【担当科目】

健康科学特論I、病態運動学論、運動機能解析学特論、研究論、健康科学特別研究I～III

【研究領域】

筋骨格系バイオメカニクス、理学療法学

豊島 由樹子

TOYOSHIMA Yukiko

教授

【担当科目】

健康科学特論II、慢性看護学特論、健康科学特別研究I～III

【研究領域】

慢性看護学

原沢 優子

HARASAWA Yuko

教授

【担当科目】

健康科学特別研究I～III、健康科学特論II、在宅・家族看護学特論

【研究領域】

高齢者看護学

藤井 徹也

FUJII Tetsuya

教授

【担当科目】

健康科学特論II、実践看護技術学特論、研究論、健康科学特別研究I～III

【研究領域】

基礎看護学

蒔田 寛子

MAKITA Hiroko

教授

【担当科目】

健康科学特論II、在宅・家族看護学特論、研究論、健康科学特別研究I～III

【研究領域】

在宅看護学、家族看護学

富岡 美佳

TOMIOKA Mika

教授

【担当科目】

健康科学特論II、健康科学特別研究I～III、母性看護・助産学特論

【研究領域】

母性看護学、助産学

桂川 純子

KATSURAGAWA Junko

教授

【担当科目】

コンサルテーション論、ストレスマネジメント論

【研究領域】

精神看護学、看護倫理学

加藤 知佳子

KATO Chikako

教授

【担当科目】

対人コミュニケーション論

【研究領域】

心理学

小竹 伴照

KOTAKE Tomomitsu

教授

【担当科目】

障害回復支援理学療法論

【研究領域】

リハビリテーション医学

辻村 尚子

TSUJIMURA Shoko

准教授

【担当科目】

障害回復支援理学療法論

【研究領域】

地域理学療法、予防理学療法、介護予防

履修モデル 地域の健康生活支援のリーダーとして活躍する

動作運動特性の分析を基礎にした
リハビリテーション治療学のプロをめざす

病態運動学分野の専門性を高め
運動学的分析技術とその臨床応用を修得する。

健康科学特論I、健康科学特論II	健康支援の概念を学ぶ
生体構造論	解剖学の知識を深める
障害回復支援理学療法論	理学療法ならびに広範な支援について学ぶ
対人コミュニケーション論	リハビリテーションに必要なコミュニケーションを学ぶ
病態運動学論	障害による身体運動機能の変容と評価の知見を学ぶ
運動機能解析学特論	運動機能の解析について深く研究する

地域において健康の
予防・増進に関わる企画・管理をめざす

看護学を基盤に、
生活健康支援についての知識と技術を学ぶ。

健康科学特論I、健康科学特論II	健康支援の概念を学ぶ
コンサルテーション論 対人コミュニケーション論 ストレスマネジメント論	看護ケアに関連する知見を得る
研究論	研究手法について学ぶ
在宅・家族看護学特論	在宅における看護の役割と機能について学ぶ